

## 令和5年度第2回認知症施策検討委員会 記録

日時 令和5年11月27日（月）

13:30～15:30

場所 高梁市役所3階大会議室

### 1. 開 会

あいさつ（河本委員長）

認知症啓発や本人支援について活発な協議をして、より良い施策が進んでいくと良いと思う。先日、認知症のご家族の方と話をする機会があったが、過去の事を思うと少しずつ理解が進んでいるように感じる。出来ることをさせている、よく分からない、好きなようにさせている等言いながら支えている人が大勢おられ、そういった本人や家族が元気にいきいきと過ごせる地域が築ければ良いと思う。

### 2. 協議事項

#### 1) 令和5年度認知症総合支援事業の進捗状況について（別紙）

【グループワーク】認知症理解啓発活動について

##### ①今年度の認知症月間の評価

- ・ 去年の委員会での話し合いが反映された内容だった。
- ・ ポルカ、イズミの人が集まる場所で啓発活動を行うことで色々な世代に認知症に知ってもらいきっかけになったのではないかな。
- ・ 啓発用のうちわを配ることで声を掛けるきっかけとなり良かった。
- ・ 行政放送では行方不明等の場合でも 110 番通報をして良いということが周知出来て良かった。
- ・ 川上図書室は地域局と同じ場所のため、月間中認知症関連の図書も多く借りられた。

##### ②来年度に向けて

- ・ 相談には敷居の高さがあるため、もう一步踏み込んだ相談に乗れる体制をとってはどうか。病院にブースを設置し待ち時間に相談に乗る、認知症カフェの無い地域等に出向いて相談会を行う等。
- ・ パネル展示はスタッフがいない方が見てもらいやすいか、お客さんがいたほうが見やすいか検討が必要。
- ・ 今年度のうちわのように街頭啓発の際に来た人が何かをもらえると良い。
- ・ 市の公式LINEを啓発活動当日に写真を載せて配信する。
- ・ 昨年から出ている、小中学生に認知症に関する絵を書いてもらい展示する。親は見に来るので足を止めてもらうことを目的に行う。
- ・ ホールだけでなく、出入口の目に付く場所にも展示する。

- ・ 認知症予防は興味を引く為、予防についても展示内容に含める。
- ・ チームオレンジの活動等についてパネル展示で紹介する。
- ・ 簡単に回答できる形でパネル展示を見てもらったアンケートを取る。

#### 河本委員長総括

去年より良かったという意見があり、グループワークでは来年に向けて良くなる意見が出ていたと思う。上手く取り組めるところから行い、もっと良い活動が出来れば良いと思う。

#### 2) 本人支援について (別紙)

##### 【グループワーク③】

- ・ 食事作りに自身がないという声に対しては、料理教室等一緒に出来る場があれば本人の自信や生きがいに繋がるのではないかな。
- ・ 免許返納したくないという声について、福祉バス等もあるがバス停まで行くことが出来ないという声も聞く。移送サービスは通院時等利用場面が限られており、本人の困りごとが補える方法があれば良い。
- ・ 使いたいときに利用でき、安価で利用できるようなサービスがあれば良い。
- ・ 家族が困るから支援するのではなく、本人が自信を持って家族にも理解してもらえるような、本人を応援できるようなことができれば。
- ・ 本人がまだできるがすることに不安があるという人に今出来ていることを伸ばせる場があれば良い。
- ・ チームオレンジが活動している地域については、声かけ支援も出来るかもしれない。
- ・ 通所型サービスB (有漢) の評判が良い。通所Bやミニデイの利用がもっと柔軟に出来れば良いのに。
- ・ セルフレジが認知症の人にとって使い良いということが店側へ知らせる。小銭を一気に投入している場面だけを見て、故障するため大量投入禁止等の張り紙をしているのではないかな。認知症の人が助かっているということを店側にも知ってもらえるのはどうか。
- ・ 免許返納後にもらう愛カードはバスの割引が受けられる。そういった良い情報を知らない人が多い。
- ・ 本人の声を色々な場所で継続的に拾い、声を発信していく場が必要。この声の続きの声もあるはずだが拾えていない。時間も手間も掛かるがやっていく必要がある。
- ・ 本人が声を発信できる仕組み作りが必要。
- ・ 本人の声を聞き、一緒に考えていく必要がある。

## 河本委員長総括

本人支援はとても難しい問題だが、本人の声を聞きどうしていかを考えることは必要なこと。本人の声を継続的に聞いていき、それを伝えていくことで支援の道が開けていくと思う。

### 3) 認知症初期集中支援チーム活動報告について

質疑：初期集中支援チーム介入まで計10回訪問しているが、家族から同意を得るのが難しかったのか。

→家族に説明しても「どうせ本人はサービス利用しない」と言い、同意を得るまでに時間を要した。

質疑：初期集中支援チーム支援対象者を増やすことは難しいのか、件数が増えるための困難さはどこにあるか。

→スムーズにサービス利用に繋がる場合には件数に計上していない。初期集中支援チーム介入となると集中的に訪問する必要がある、チーム員は包括職員のため、職員体制上の難しさもある。また、支援終了後に振り替えると初期集中支援チーム介入すれば良かったという場合もある。

### 3. その他

- ・医療・介護市民公開講座
- ・ボランティア養成講座
- ・家族介護者のつどい

#### 第3回認知症施策検討委員会について

日時：令和6年2月15日（木）13：30～15：30

場所：高梁市役所3階大会議室

### 4. 閉 会（妹尾副委員長）

啓発活動については、今年は昨年度より良くなったので、来年度もっと良くなれば良いと思う。相談時の敷居の高さが今後解決できる案が出てくれば良いと思う。

認知症の人が住みやすい地域になれば、障害のある人やそのほかの人にも住みやすい地域、誰にでも優しい地域になっていくと思う。委員の皆さんもその身近な人の声をきくことを意識して、次回の委員会に持ち寄って欲しい。